大谷ニューストーン

大谷ニューストーン 900

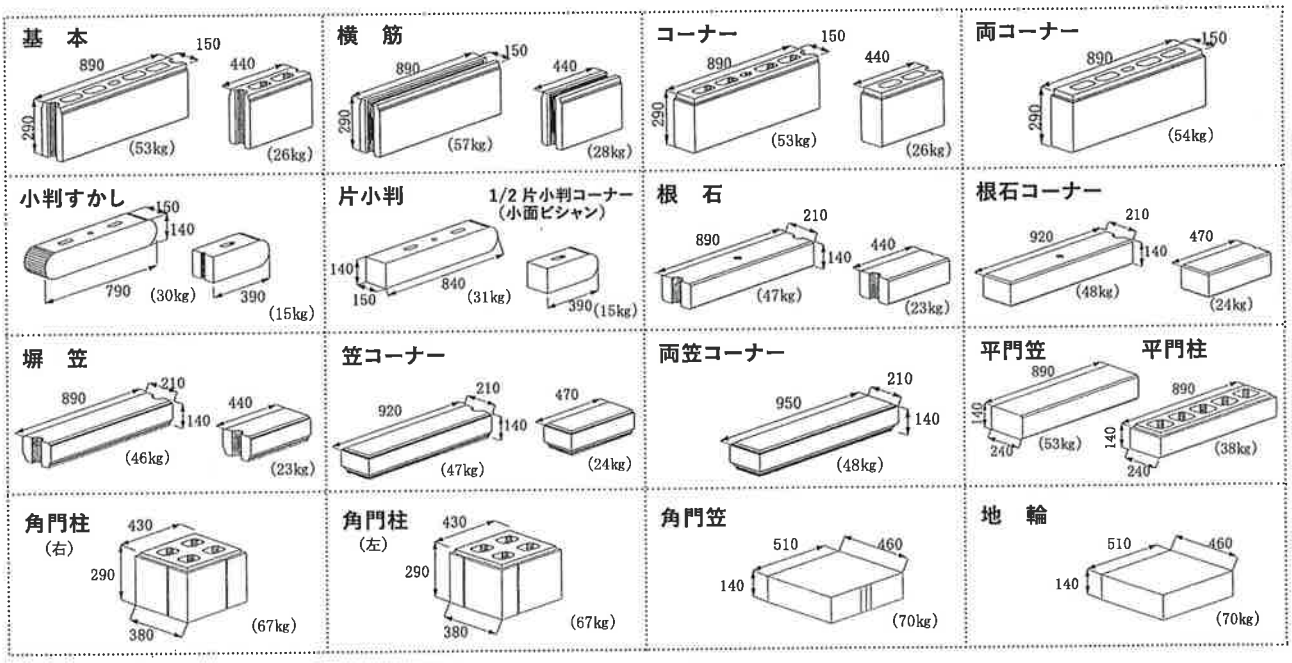
OOYA NEW STONE

白目材
青目材

白目材

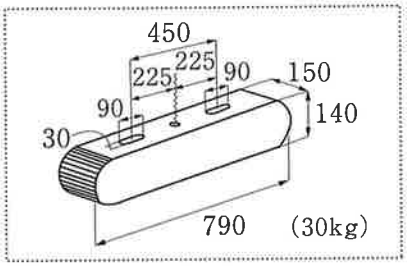
青目材

【形状・寸法】(mm)



小判すかし

OOYA NEW STONE 900



※大谷ニューストーンには、大谷石（粒子）が骨材として入っております。
その中に「ミソ」という斑紋があり、ブロック本体にも多少入る場合があります。

大谷石を主原料とし、天然石の「味わい」「温もり」を
兼ねそなえた、最高級化粧ブロックです。

白目材

施工例 ①

青目材

施工例 ②

大谷ニューストーン 500

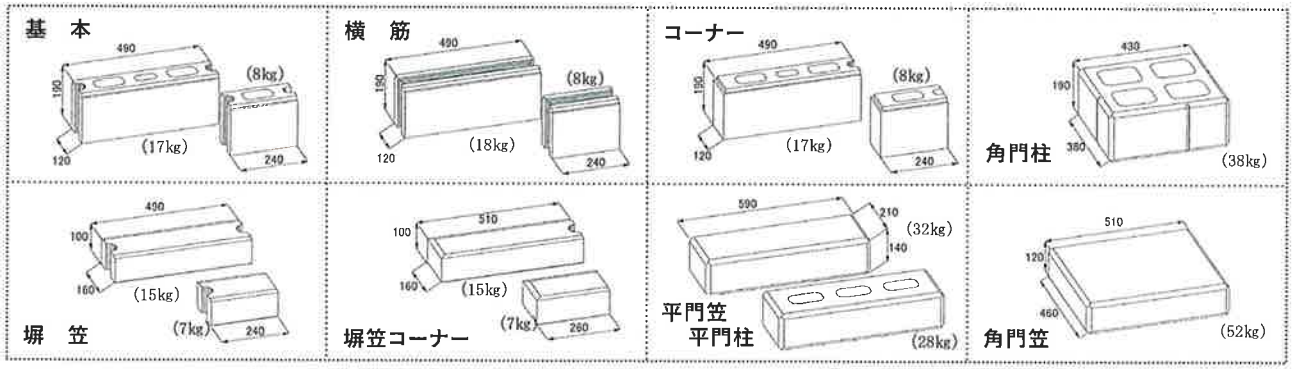
OOYA NEW STONE

白目材
青目材

白目材

青目材

【形状・寸法】(mm)



白目材

施工例 ③

大谷石
OOYA STONE

施工例 ④

貼り石

施工例 ⑤

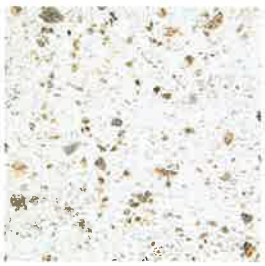
貼り石

施工例 ⑥

大谷石表面仕上げ

OOYA STONE

ビシャン



チェーン目

コブ出し

ダイヤひき

ブロック塀の設計・施工における注意

コンクリートブロック塀を設計、施工するに当たっては、建築基準法施行令第62条の 8(塀) の規定を守るとともに、日本建築学会「コンクリートブロック塀設計基準」及び「組積造設計基準」を参考に安全で正しい施工に留意してください。

建築基準法

1. 高さは 2.2m以下としてください。
2. 塀の厚さは 15cm（高さ 2m 以下の塀にあっては 10cm）以上としてください。
3. 壁頂及び基礎には横に、壁の端部及び隅角部には縦に、それぞれ径 9mm 以上の鉄筋を配置してください。
4. 長さ 3.4m 以下ごとに、径 9mm 以上を配置した控壁で基礎の部分において、壁面から高さの 1/5 以上突出したものを設けてください。
5. 壁内には、径9mm 以上の鉄筋を縦横に80cm 以下の間隔で配置してください。
6. 配置する鉄筋の末端はかぎ状に折り曲げて、縦筋では壁頂及び基礎の横筋に、横筋にあってはこれらの縦筋にそれぞれかぎ掛けして定着してください。（図 -1）
7. 基礎の丈は 35cm 以上とし、根入れ深さは 30cm 以上としてください。

日本建築学会「コンクリートブロック塀設計基準」

1. 塀の高さ

① 塀の高さは 2.2m 以下としてください。

② 塀の厚さは塀の高さ 2m以下の場合は 12cm 以上、2m を超える場合は 15cm 以上としてください。

2. 基礎の形状と塀の高さ

① 塀の高さは布基礎の形状及び地盤の性質に応じて、（表 -1）に示す数値以下にしてください。

② 塀の下部には、塀を安全に支持する鉄筋コンクリート造の布基礎を設けてください。

③ 控壁及び門柱の基礎は、塀の基礎と一体化してください。

④ 塀の布基礎の形状寸法、根入れ深さは、図 -1 の通りです。

3. ブロック塀の配筋

① 塀に挿入する縦筋及び横筋はD10 以上の鉄筋としてください。その鉄筋間隔は（表 -2）に示す数値以下としてください。鉄筋間隔は 80cm 以下としてください。

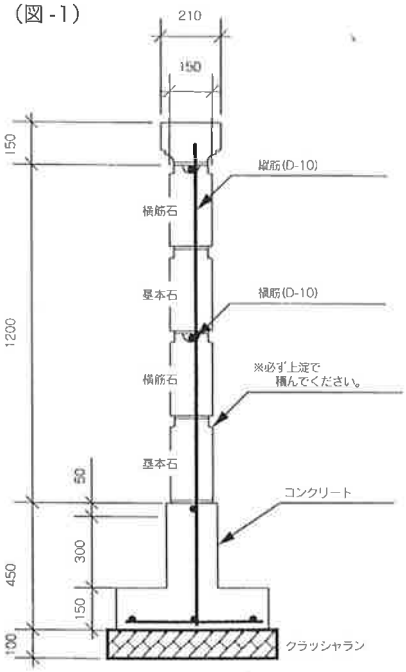
② 横筋は横筋用ブロック内に配置し、壁頂には横筋を挿入してください。

③ 横筋は壁端部において控壁、門柱に定着させてください。

④ 塀の縦筋は基礎に定着するほか、壁頂にかぎ掛けし、又は壁頂の空洞部内に定着させてください。

⑤ 控壁の縦筋及び横筋はD10 以上の鉄筋としてください。横筋間隔は 80cm 以下とし、縦筋にかぎ掛けてください。

（図-1）



（表-1）　（単位m）

基礎の形状	I形 基礎		T.L形 基礎	
土質	普通土	改良土	普通土	改良土
控壁無し	1.2	1.6	1.6	1.6
控壁あり	1.4	1.8	1.8	2.2

（表-2）　（単位cm）

控壁	塀高さ	化粧ブロック		共通
		ブロック長さ	縦筋間隔	横筋間隔
あり	1.6m以下	40,50,60	60	80
		90	45(90)	
	1.6mを越え 2.2m以下	40,50,60	60	80
		90	45(90)	
なし	1.2m以下	40,50,60	60	80
		90	45(90)	
	1.2mを越え 1.6m以下	40,50,60	60	80
		90	45(90)	

( )内数値はD13使用の場合

コンクリートブロックのメンテナンス

白華について

白華は、ブロック及び目地（モルタル）部分での水分の移動が容易であるほど発生しやすくなります。

冬期の気温の低い状態の時に、雪や霜、雨などにより湿潤状態が長く続く時や、雨期などの多雨、高湿状態が長く続く時に発生しやすい。

白華の除去方法

ナイロンブラシ及びワイヤーブラシで軽く押さえ、2～3回こすり落としてください。それでも白華が残っている場合は除去剤で洗い落としてください。

白華防止について

浸透性吸水防止剤などを使用し、水のブロック内部への浸透を防いでください。

凍害について

コンクリート中に浸入した水が、長年月の凍結融解の繰り返し作用によってコンクリートを劣化させる現象です。

屋外で使用されるコンクリートブロックは、降雨、降雪等の気象条件で内部に水が浸入し、ひび割れ、汚れ、凍害のもとになります。

予防には「シラン系防水剤」を塗布すると有効です。

石 大協商事株式会社

〒321-0158　栃木県宇都宮市西川田本町２丁目１番32号
TEL：028-658-7890　FAX：028-659-1382